

Report～団員ソロ活動レポート

第1回天草宝島音楽会

去る4月29日、熊本県天草市五和町の【おおくすホール】で「第1回天草宝島音楽会」が開催されました。私が天草出身で、地元で演奏会を開きたいと思い企画し、何とか実現することができました。

当合奏団のコンサートマスター中西弾、ピアノ江藤麗香と三人でトリオロッソ（ロッソはイタリア語で赤を意味します）を結成し、いざ天草へ！とはいものの実際は演奏会当日までの準備が大変なのです。会場をおさえ、チラシ・プログラムを作成し、リハーサルの日程を調整し、後援依頼や調律師さんの手配などなど数え上げればきりがないくらいの雑務があるのであります。普段合奏団で活動しているときは事務局のメンバーがやってくれているんですが、自主公演はそうはいきません。そういうことをこなしながらのさあ本番！開演するまでが一番緊張するものです。それはなぜか？お客様がどれくらいきてくださるか不安なのです。会場は150人入れば満員という小ホール。実はチケットが思うほどでていなかったので不安は高まるばかり。あまり少ないようなら開始時間を少し遅らせようかと考えていました。タイトルに第1回とつけたのに2回はないかも、とも思ってました。開演5分前になって係りの人から、5分開演を遅らせようとの提案。案の定かと肩を落とすと、なんと！なんと！！お客様が多くて席に着くのに時間が足りないとのこと。あの時は感動でしたねー。実際は158人の方に来ていただけました。会場のライトが落ちステージだけが明るく、登場する私達3人。ステージから客席を見ながら本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。その後の演奏は気持ちよかったです。あっという間にプログラムを終了し、アンコール演奏。この時がずっと続けばいいのに…。この後のビールの味は最高でしたよ！

音楽とはただ楽譜を演奏することではないと私は思っています。作曲者は自らの思いを曲に込め、演奏者はそれを自分の思う音で歌い、聴衆はそこから何かを感じ感情が芽生える。そこに始めて音楽が生まれるのではないか。今度は皆様と合奏団のステージで音楽を共有できることを楽しみにしています。

それと今回の演奏会で思ったことがもう一つ。いつも合奏団の演奏を支えてくれる事務局、ボランティアの皆さん、本当に感謝、感謝です。ありがとうございます。



亀子政孝／コントラバス
熊本県天草出身。福岡大学経済学部、平成音楽大学卒業。深沢功（九響首席）氏に師事。第6回九州音楽コンクール審査員特別賞、第10回宮日音楽コンクールグランプリ受賞。第126回日演連推薦新人演奏会において九州交響楽団と共に演奏。九州ベースクラブ会員。

クラリネットだけのアンサンブルを聴いたことがありますか？

G.W.最終日の5月6日に「clarinetto・musicante アンサンブルコンサート」を長崎市内の洋館、旧香港上海銀行記念館（通称：香上）で開催しました。お客様はなんと3／4がクラ愛好家！長崎だけでなく福岡・熊本・愛知から集った奏者は自分の楽器の他にもエスクラ・アルトクラ・バスクラといったいろんなサイズの特殊管を駆使し、とても面白い演奏会となりました。

“クラリネットで出来る事、なんでもやっちゃおう！”というコンセプトのもと、独奏から、低音楽器だけの珍しい四重奏、バッハあり、作曲されたばかりの作品ありアンコールには二人羽織での演奏まで！盛りだくさんのプログラムでしたが、クラリネットの音と洋館って、・・・すっごく、合うんです。ほの暗い照明の香上に、あたたかいクラの響きが見事にマッチして、雰囲気のある演奏会になりました。

終演した後に、お客様から“楽器、しばらくお休みしていたけれど、また吹きたくなつてウズウズしました。いまから家に帰つて吹きます！”と言われ、何より嬉しかったです。

企画からすべて自分達で行う自主公演は、大変なことも多いですが、これからも1人でも多くの人に音楽で楽しんでもらおうと思えた、心地よい充足感でした。

写真／二人羽織での演奏



山田芳美／クラリネット
長崎出身。12歳よりクラリネットを始める。長崎東高校、長崎大学教育学部音楽科卒業。松本努、小川勉氏に師事。第132回日演連推薦新人演奏会において、黒岩英臣指揮にて九響とウェーバーのクラリネット協奏曲を共演。活水高等学校音楽コース非常勤講

「ホールにピアノであるの？」
「バロコであるの？」
「いいです。借りるんです！」みんな驚きを隠せない質問を受けながら、コンサートの準備は着々と進みました。

「ベルギー王立美術館展」を見ると、いろいろ音が聴こえる・・・シャーマン、ロシア音楽、リュート、ヴィオール、ヴィオラ・ダ・ガン、ピアノ；特にベルギー出身の作曲家フランクやイザイの崇高なヴァイオリンの響きが展示室全体から薫る様に私には聴こえました。

この素晴らしい展覧会に相応しい音楽を提供して下さったのが、OMU R.A.室内合奏団。この色々な音が漂う展覧会を表現したい！私がぶけた無理難題にマネージャーとライブラリアンは頭を抱えながら、曲目を選定しベルギー王立美術館展を「時代」という大きな流れで音楽を組み立てることに話はまとまっています。

私たちの思いが通じたのか、チケットは1週間前には完売！会場を埋め尽くす多くのお客様のことを考えると緊張して眠れなくなつてきましたが、なんとか多くのお客様に感動を伝えたい、その一心でした。

当日、13時に1Fのエントランスロビーで行つた無料プレコンサートは、天井の高いロビーに温かい陽だまりのように、また繊細に降り注ぐ月光のように弦楽四重奏の美しい和声が響き渡りました。チエンバロを初めて見る聴くお客様はコンサートが終わった途



エントランスロビーでの無料プレコンサートの様子。

OMURA室内合奏団ピアノ五重奏と ベルギー王立美術館展（2月18日）

長崎県美術館総務広報グループ 建石久美子



端にチエンバロの周りにわっと集まり、目はみんな子どもようにキラキラ！

16時からの展覧会の学芸員による、作品解説は、担当の学芸員もびっくりするほど多くのお客様が熱心に食

い入るように解説を聞いていました。

やはり美術と音楽、芸術を愛する心は共通していますね。学芸員の絵の中には引き込むような詳細かつ熱のこもつた作品解説によって、あたかも各作品の主人公に自分がなつているような：

そんな素敵な時間を過ごしたお客様たちは、いざコンサートへ向かいます。

17時からのコンサートは、純粹に音を楽しむために2Fホールでクローズされたコンサート。不思議なことに、前日のリハ、当日のゲネプロと重ねるごとに「音に包まれる」感じが増してきます。ピアノソロ・ヴァイオリン&ピアノ、ピアノ三重奏、弦楽四重奏、ピアノ五重奏とバラエティに富んだ編成と、演奏する曲に関連した出品作品をスクリーンに映し出すことで、音楽の多彩さのみならず美術との深い関わりを感じられる。弦楽器ならではの響きを肌で感じ、間近で弓使いを見て、音の振動を体感し、複雑な和声の移り変わりに浮遊感にも似た快い感覚；そして「音に包まれる」演奏者と聴衆、美術と音楽：相互が近くに存在することを感じられる瞬間を今回来られたお客様が少しでも感じとて頂けているなら：私はやつと眠れます。



文協
BUNKYO
National Center for Art Research

掲載記事のご案内／長崎県文化団体協議会 発行「文協」